

<自己評価1回目>

※黄色のセルをすべて記入してください。

整理番号

2025P-

334

補助事業者名

(福)一燈園

別紙4 JKA補助事業 2025年度 事前計画／自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

作成日

2025

年

11

月

6

日

作成者

井元 啓伸

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画／自己評価書(3/5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。				採点	
(1) 受益者 (ニーズ)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
(2) 事業内容	予定どおり車イス仕様リフト式移送車3(定員10名)を導入した。メーカー側の生産計画の関係で納車予定を12月としていたが、予定より早い9月に納車ができたため、同月より利用者受診時、外出行事実施時、短期入所生活介護利用者送迎時に使用している。				
事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
実施計画・体制	予定より早く導入することができた。実施体制について、短期入所生活介護事業の縮小により、介護職の減員があったが、影響なく運用できている。			4	
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 2025年9月	[達成状況] 100%	[具体的内容] メーカー側の生産計画の関係で納車予定を12月としていたが、予定より早い9月に納車ができた。	採点 4
	事業の成果・波及	[達成値] (1)1回/月 (2)未達成(3.6人/日)	[達成状況] (1)75% (2)0%	[具体的内容] (1)毎月のドライブ行事の策定について、早速10月に利用者延べ6名が参加しミニドライブを実施した。11月にも紅葉観賞のドライブを予定している。 (2)短期入所生活介護利用者の1日平均10名という目標については、短期入所生活介護事業の縮小に伴い、当該事業での利用機会がほとんどなくなったため、達成は困難となった。しかし、病院受診や健康診断の目的で1日あたり2～3名の利用があるなど、同車両を多目的に活用できている。	採点 3
(4) 情報発信	事業の実施結果	[達成値] (1)1回(80部配布) (2)1回	[達成状況] (1)100% (2)100%	[具体的内容] (1)利用者及び家族、関係者へ、計画通り事業完了紹介チラシ80部を配布するとともに玄関ロビーの掲示板に同案内を掲示した。現在も来園者への配布は継続中。 (2)ホームページ及びInstagramに掲載中	採点 4
	競輪・オートレース補助金による事業であること	[達成値] (1)80部配布 (2)1回	[達成状況] 100%	[具体的内容] (1)紹介チラシを手渡す際、JKA補助事業による導入であることの口頭説明を加えた。 (2)JKA補助事業であることを明示した。	採点 4
(5) 自己評価の体制	評価委員会を開催し評価を行った。評価結果は法人ホームページに公開予定。			採点 4	

(b) 総合評価

総合評価点

4

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。	
(1) 事前計画 (2/5)記載の「補助事業の直接的な目的を踏まえた、事業全体についての意見・所感」	計画よりも早期に車両を導入できたことで、懸案となっていた利用者の乗車時の快適性及び安全性の課題をいち早く解決することができた点が、最大の成果である。今後は、目標としているドライブ行事を毎月確実に実施することで、利用者のさらなる社会性の向上を図るとともに、車両の稼働率を高めることで補助事業の認知度向上にもつなげていきたい。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	これまで使用していた車両は、導入から約20年が経過し、経年劣化が進んでいた。そのため、走行時や制動時の揺れ、ドア閉閉時の衝撃が大きく、決して快適とは言えない状態だった。今回の車両入替により、乗車時の快適性や安全性が向上し、利用者や家族から多くの喜びの声をいただいている。 目標の一つとして掲げていた短期入所生活介護事業における送迎業務での活用については、事業自体を縮小することとなったため、当初の目標に対する評価が困難となった。そこで、外出行事の実施を主な目標とし、併せて受診や健康診断実施時の活用頻度を高めることで、目標設定時と同程度の広報効果を図る。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってほしい点	当法人は、約30の事業を運営する大規模法人であり、設立から50年にわたる実績は、市内のみならず県内外においても広く認知されている。そのため、導入車両が走行している様子が一般の方の目に触れるだけでも、本補助事業の高い宣伝効果が期待される。また、当法人ホームページの直近1か月の閲覧回数は約1,500回であり、年間ではおよそ18,000回に達する計算となる。したがって、ホームページを通じた事業の周知・広報効果も極めて高いものと考えられる。

【福祉車両・就労支援車両】

別紙 JKA補助事業 2025年度 事前計画／自己評価書(5/5)

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

- 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)～(15)の「促進」または「阻害」欄に「*」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に、それぞれの要因分類の番号(1)～(15)を付して、具体的にご記入ください。
- 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「*」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部要因			(1) 経費		
		*	(2) 実施体制 (人員、関係機関の協力等の確保)	選定したメーカーの車両生産計画の関係で、計画が遅延することも想定していたが、販売店からの都度の情報提供等の協力によって円滑に手続きを進めることができ、その結果、計画よりも早期の納車に至った。	
			(3) 資材調達 (事業実施に必要な物資等の確保)		
			(4) 実施期間 (事業終了までに要する期間)		
			(5) 事業運営のノウハウ (進捗管理、資金管理等)		
			(6) 設計仕様の変更 (主に建築)		
			(7) その他		
外部要因			(8) 受益者の規模・ニーズ		
			(9) 実施体制以外の団体等の協力・支援		
			(10) 関連法制度の変更		
			(11) 利害関係者 (受益者以外)の要望への対応		
			(12) 災害の発生 (地震、洪水等)		
			(13) 同様の技術開発		
			(14) 競合するサービス・事業の出現		
			(15) その他		
		(16) 特になし			